
< 双果、俺を毎日起こしてくれ！ >

レックス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

< 双果、俺を毎日起こしてくれ！ >

【Nコード】

N5984J

【作者名】

レックス

【あらすじ】

続くかわかりませんが、幼馴染ものです。ツンデレではありませんので、「」注意を。

（前書き）

原初の巫女の化神に、煮詰まったので、息抜きに書きました。良い反応いただけるようなら、続編も考えてます。では、お楽しみください。

まだ夜も明けきれぬ早朝に少女は、少年の部屋へと赴く。目的はただ一つ、依頼主からの依頼を果たすため。この依頼、難易度自体はあまり高くない。通常なら、三歳に満たない子供でもできる依頼だ。しかし、このターゲットにかぎってはそうともいかない。ターゲットの少年は、時折少女に襲いかかってくるのだ。毎日行っているこの依頼において、少女が襲いかかられる確率は実に四割強！そして、それは自己防衛本能とでもいおうか無意識下で行われる。さて、ここで少女が依頼主から受けた依頼名をお伝えしよう。＜双果、俺を毎日起こしてくれ！＞

今日も覚悟を決め、私は幼馴染の部屋へと侵入する。カーテンを開けると、薄暗いながらも確かな明かりが部屋を照らす。そして、あらわになったベッドと盛り上がった布団。私は、ドアの鍵を閉めせっかく明けたカーテンも閉める。ついでに、電気ストーブのスイッチも入れる。皺になりそうな、制服の上下を脱ぎ、スパッツとセーターだけの姿になる。これで、いつ引っ張り込んでもらっても安心。私は、そっと布団をはがそうとして、抵抗された。てか、すごい力で布団を掴んでる。びくともしない。仕方なく、布団ごと彼をゆすり耳元で声をかける。すると彼は、身をよじらせて私の方に向き直る。そして、眠たげに眼を開け、布団を半身になって開いた。……おいでの合図である。私は、軽くため息をつくと、彼のベットに体半分だけ侵入し、彼の頬をつねる。だが、なぜかその行為によって眠気がぶり返したのか、布団を閉じ寝入ってしまった。幸にも今回は、巻き込まれることはなかった。しかし、起こすという目的は遠のいてしまった。呼吸を整え、唇を真一文字に結んで、私は再び彼を優しくゆすった。すると、彼は布団を再び開き、私を引きずりこんだ。私は思ったくやった！！！！久しぶりに来た！！！！＞

俺は、おぼろげな意識の中誰かが体をゆすっているのを感じた。あくまで優しく、俺に不快感を覚えさせない程度のゆすり方だ。このゆすり方をするのは恐らくは幼馴染だろう。なんたって、あいつは俺に甘いし、毎日起こして俺が頼んでいるのだから。なぜ頼んでいるのかって？ 今もついやってしまったが、俺には一つ厄介な癖があるんだ。それは、寝起き状態の時誰彼かまわず布団に引っ張り込む癖。しかも、そのあと、体を撫でまわす。うん、我ながら最悪な癖だと思うが、なぜだか治らない。いや、改善はしている。今では、（自称）二割くらいの確率でしか引っ張り込まない。昔は十割だった。まあ、とにかくそんな俺だから家族に起こしてもらわけないはいかない。この年になって、母に抱きつくなんて恥ずかしいし、引っ張り込むこと自体異常だ。妹にしちまうと、うん、すべてが終わる気がする。親父は……むしろ、首吊るよ俺が。てことで、幼馴染。この選択がおかしいって？ わかってるさ、そんなことでも、これだつてきちんと利害関係があるんだ。何かって？ うーん、言っちゃまっていいのかな？ 言っちゃまうか！ 俺にも、悪癖があるようにあいつにもある。悪癖が。俺の場合は、大まかに言うと布団にひっぱりこんで、セクハラしまくるんだが、あいつのはかなり酷い。酒飲むと、痴女になる。服脱ぐは、キス魔になるは、擦ってくるわでもう大変。しかも、厄介なことにあいつは淫魔と吸血鬼のハーフだから、その行為によって相手を疲弊させちまう。文字どおり、血と精を吸って干からびさせちまう。これ、経験談だから。そんなときに、あいつが俺に謝罪して、毎日起こしてくれるって言ったんだ。もともとしてくれてただけど、＜約束＞してくれたって訳。代わりと言っちゃなんだが精は一日一回、血は週に一回あいつに与えてる。これが、俺とあいつの利害関係ってこと。

朝、起きてリビングに行くとお兄ちゃんと双果先輩がソファに並んで座っていた。どうも、テレビを一緒に見ているみたい。二人

の距離は近い、まるで恋人みたいに寄り添ってる。言いすぎかもしれないけど、それが一番しっくりくる。双果先輩の機嫌が好さそうなどを見ると、今日お兄ちゃんのお癖が出ちゃったんだと思う。

夫と朝のジョギングを終えて帰ると、息子と娘とお隣の双果ちゃんがいた。双果ちゃんはやっぱ息子の隣に陣取ってる。ぴったりとくっついてるってことは、今日は息子の悪癖が発症したみたいね。双果ちゃんすごくうれしそうな顔してる。やっぱ、恋する乙女はかわいいわね。

妻と朝のジョギングを終えて帰ると、子供が三人いた。皆、テレビに夢中になっているようだ。息子は、幼馴染の子と並んで座っている。距離がかなり近い、というかも密着しているが、それは幼馴染故だろう。娘は、椅子に座ってみているがちらちらと二人を見ている。双果ちゃんの弟のことでも考えているのだろうか？ 父として、少し寂しいな。

（後書き）

どうでしたか？ 書き方が特殊で、気に入らない方もいたかもしれませんね。基本短編なのでご勘弁を。では、失礼します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5984j/>

< 双果、俺を毎日起こしてくれ！ >

2010年10月15日22時16分発行